福祉部長　市が公費助成事業を開始することで、予防接種を受ける人が増え、高齢者の肺炎を減らし、重症化を予防することが期待できる。その結果として、高齢者の医療費削減につながると考える。今後は足利市医師会の意見も踏まえ、できるだけ早い時期での実施に向け、検討していきたい。

市政運営していく上での議会対応を問う！

横山 育男 議員

問　市長には市政運営していく上で、市民同様、議員に対しても「オール足利」の態勢で進めてもらいたい。議会とよく議論し、政争を引きずらぬ対応を望むが、所見を聞きたい。

市長　政争を繰り返すことは、足利市にとって決して良い事ではない。今後も市の発展のために、議会に対して早い情報提供と丁寧で真摯な対応を行っていきたい。

問　市長は子供たちのスポーツに対し、高い関心を持っていると思う。夜間開放されている学校体育施設の利用について、平成24年度から電気使用料相当分が実費徴収されているが、再度無料化できないか。

市長　現在、少年等の団体の利用については、一般利用者の１／２に負担額を軽減しているところである。子供たちの体力向上やスポーツ活動への意識高揚を図る面からも、利用料については、今後、検討していきたい。

足利市を元気にする三本の矢について問う！

小林 貴浩 議員

問　市長の選挙公約に、「国・県との連携による産業団地の早期造成と優良企業の誘致」とあるが、誘致する企業はどのような業種でどのような規模の会社を想定しているのか。

市長　具体的な業種等についてはまだ言える状況ではないが、いわゆるハード的な製造業以外にもソフト産業的な分野にも話をさせてもらっている。多方面から私の人脈を生かしてアプローチしていきたい。

問　本市の財政の立て直しはどのような手法で行うのか。短期的、中期的、長期的な目標と具体的な目標数値を聞きたい。

市長　今後とも、第６次足利市行財政改革大綱実施計画に基づき、行財政改革を進めていく。改革の推進に当たり、本年度の見直しにおいて、当初の数値目標を達成している項目については、より高い数値目標を掲げ、取り組んでいきたい。

ごみや樹木など近隣迷惑の対応を問う！

平塚　茂 議員

問　空き家ではなく住民が住んでいるにもかかわらず、ごみがあふれ、樹木が茂るなど近隣に迷惑をかけている場合がある。市としての対応を聞きたい。

生活環境部長　近隣住民に多大な迷惑を及ぼす場合については、関係機関や自治会など地域と連携し、情報を共有する中で、個々の状況に応じた対応を行い、近隣住民の良好な生活環境を確保していきたい。

問　救急車が到着してから病院に収容されるまでの時間がかかり過ぎていると感じている。救急車が来ても、なかなか病院に向けて走り出さないといった声も聞く。本市の救急体制の現状を聞きたい。

○教育行政について
・情操教育における取り組み
・学校体育施設夜間開放の有料化見直し
・西中学校生徒死亡事故のその後の状況

小林　貴浩　議員
○市長の政治姿勢について
・足利再生３本の矢
・行財政改革
・まちづくり
・地方分権

平塚　茂　議員
○足利市の危機管理について
・市役所への訪問者が暴力行為や放火などをしようとしたときの対策
・携行缶によるガソリン補給の際の事故対策
○ごみ屋敷等による近隣迷惑の解決について
・ごみ屋敷による火災や異臭、樹木や雑草などの放置による近隣の迷惑状況への対応
○安全安心のまちづくり
・セイフティコミュニティの考え方を取り入れ、市民とともに危険箇所をなくしていく活動の推進
○足利市の救急体制について
・救急患者の病院受け入れ態勢の充実

荻原　久雄　議員
○足利市民総発電所構想について
・足利市民総発電所構想の進捗状況
・足利市民総発電所構想により期待されるビジネスモデルと今後の取組み
○栃木県立足利図書館について
・栃木県立足利図書館の移管計画とその対策

消防長　通報を受けてから病院に患者を収容するまでの平均時間は38.9分であり、県内では、13消防本部中4番目に速い。時間がかかった原因は、救命救急士のＡＥＤによる特定行為や、受け入れ先の病院がなかなか決まらないことも要因となっている。今後、病院・医師会など関係機関と協議を重ね、受け入れ態勢の充実強化に努めていきたい。

足利市民総発電所構想により期待されるビジネスモデルを問う！

荻原 久雄 議員

問　電力システム改革を実現する電気事業法改正案に伴い、足利市民総発電所構想に関連し、期待されるビジネスモデルの研究と成果について聞きたい。

生活環境部長　地域内のエネルギーマネジメントを効率的に行う事業体をビジネスモデルとして位置づけ、複数の再生可能エネルギーを組み合わせたハイブリッド発電や、市内での節電分を発電効果とみなすネガワット事業など、電力をトータルで運用できる仕組み作りを検討しているところである。

問　本市の投票区のうち第35投票区（足利八木節振興センター）は、有権者数が5千600人余と市内で一番多い。投票区を分割し、有権者の利便を向上させることはできないか。

行政委員会事務局長　同投票区では一時的には混雑する時があったかもしれないが、投票に当たって事故やトラブルは発生していない。早急に分割する必要はないと考えるが、今後の有権者数の推移等を注視しながら対応したい。

食品ロスの削減を！

大島　綾 議員

問　本来食べられるにもかかわらず捨てられている「食品ロス」を削減するために、市をあげて意識向上に努めるべきと考えるがどうか。

生活環境部長　食品業者、小売店、飲食店等には、それぞれの立場で積極的に取り組んでもらえるよう周知徹底を図っていきたい。また、市民に対しては出前講座等を開催し、普及啓発に取り組んでいきたい。

※世界食糧計画（WFP）発表の数値

男女共同参画社会の推進を！

吉田 晴信 議員

問　市は民間企業に障がい者雇用を推進する立場である。だからこそ今後、知的障がい者も職員として公募を進めていくべきではないか。

産業観光部長　現在、本市は知的障がい者の公募は行っていない。しかし、障がい者の自立を促進するための公的機関としての責務、地域社会の一事業者としての責務を考えた時、今後検討していかなければならない課題だと認識している。

問　女性が参画した組織運営の重要性が指摘されている中、女性が地域、行政などさまざまな分野で能力を発揮できるような取り組みを強化すべきと考える。今後、どのような点に力を入れて取り組むのか。

○自然災害について
・ゲリラ豪雨、雷雨、竜巻対策
○農業行政について
・6次産業化
○投票率アップについて
・投票率アップのための対策
○交通行政について
・福居駅東口及び跨線橋の設置

大島　綾　議員
○食品の大量廃棄問題について
・食品ロスの削減
・「フードバンク」の創設
○いじめ対策について
・「地域いじめ防止基本方針」の策定
○福祉政策について
・障がい者雇用対策
・障害者優先調達推進法

吉田　晴信　議員
○地方公務員の給与問題について
・市職員の給与減額
○人権推進について
・男女共同参画社会の推進
・女性管理職の登用促進

尾関　栄子　議員
○「人権としての社会保障の実現を」について
・生活保護基準
○安心して受けられる医療介護について
・国民健康保険制度
・介護保険制度
○環境と住民に配慮した防犯灯について
・防犯灯のＬＥＤ化
○議案第50号 足利市職員等退職手当条例の改正について
○議案第51号 足利市税条例等の改正について